

安心・安全の科学研究教育センターニュース

Center for Risk Management and Safety Sciences

【目次】

- ❖ 安心・安全関連の新たな研究プロジェクトが採択
- ❖ 文部科学省安全・安心科学技術企画室長らがセンターを訪問
- ❖ センターの活動紹介（公開セミナー等／安全健康快適フェア／教職員の表彰）
- ❖ 高度リスクマネジメント技術者育成ユニット履修生募集
- ❖ 安心・安全関連の学外の動き、センター教職員一覧、編集後記

第8号



安心・安全関連の新たな研究プロジェクトが採択

学内で安心・安全に関連した研究プロジェクトが新たに3件、採択されました。

まず、①平成19年度文部科学省グローバルCOEに本学の「アジア視点の国際生態リスクマネジメント」（代表：環境情報研究院 松田裕之教授）が採択されました。環境情報研究院を中心に、人口増加や経済発展に伴う環境劣化が著しいアジアにおいて生態リスクの適切な管理に貢献するための新しいリスク管理の理念や方法を構築する5年間のプロジェクトです。

また、②文部科学省科学技術振興調整費科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進プログラムに「事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤」（代表：環境情報研究院 三宅淳巳教授）が採択されました。環境情報研究院と当センターを中心に、化学物質の自主管理のために幅広いリスク関連情報を集積した情報プラットフォームの構築と、化学物質のライフサイクルにわたる新たなリスク評価手法を構築する3年間のプロジェ

クトです。

さらに③文科省スポーツ青少年局子どもの安全に関する情報の効果的な共有システムに関する調査研究に「通学路データを活用した、高精度な子ども安全見守り共有システムの効果に関する調査研究」（代表：安心・安全の科学研究教育センター長 関根和喜教授）が採択されました。当センターと教育人間科学部、環境情報研究院とが連携して取り組む1年間のプロジェクトです。子どもの安全は安全・安心科学技術の重要研究開発課題としても着目されており、その成果や今後の展開が期待されます。

なお、②③のプロジェクトは、当センターの教育研究高度化経費を活用した成果の一部でもあります。当センターでは、今後も本学のポテンシャルを活かした幅広い安心・安全関連の研究・教育プロジェクトを企画・推進していきます。このような取り組みに関心のある方は、ぜひご連絡ください。

文部科学省安全・安心科学技術企画室長らが安心・安全センターを訪問

文部科学省安全・安心科学技術企画室の井上諭一室長らが7月10日に当センターをご訪問されました。お互いのこれまでの取り組みについて情報交換を行うとともに、今後の取り組みや連携について活発なディスカッションが行われました。特に、当センターにお

ける安全を安心へとつなげるための文理融合型の研究・教育プロジェクトの推進に、大きな期待の言葉をいただきました。今後も情報交換をしながら、本学の安全・安心関連のアクティビティを活かした事業を企画・推進したいと思っています。

センターの活動紹介

公開セミナー等実施報告

1. 文部科学省科学技術振興調整費による新興分野人材養成プログラム「高度リスクマネジメント技術者育成ユニット」の一環で次の公開セミナーを行いました。**「交通システムにおける安全マネジメント」**（6月28日、工学部講義棟 A201）

①日産自動車(株)総合研究所モビリティ研究所の井上秀明氏から「自動車安全技術の向上 日産自動車の取り組みについて」、②全日空(株)グループ安全推進部長の田中龍郎氏から「航空会社の安全管理」について、ご

講演いただき、交通システムの安全確保のための研究開発や安全管理手法などについて活発な議論が行われました。学内外から100名の方が参加しました。

「ヒューマンファクター-信頼性の見方から資産としての見方まで- (The human factor From Liability to Asset)」（9月28日、工学部講義棟 A107）

フランスパリ国立高等鉱業学校教授の Erik Hollnagel 氏から「ヒューマンファクター-信頼性の見方から資産としての見方まで- (The human factor From Liability to Asset)」について英語でご講演いた

だき、つづいて当センターの丹羽雄二特任教員(准教授)が日本語でフォローアップを行いました。ヒューマンファクタを人類の資産とするための考え方について説明、議論が行われました。学内外から82名の方が参加しました。

2. 石油タンク安全管理学分野が中心となり次のような講演会を行いました。(会場はいずれも自然科学系総合研究棟 I リフレッシュ室)

「シングルデッキ型浮屋根を有する円筒液体貯槽の地震時スロッシング応答」(5月15日)

名城大学松井教授からご講演いただき、学内外から約30名が参加しました。

「地震時における浮屋根ボンツーンの断面力・モーメントの算定法と耐震性評価方法について」(7月6日)

日陽エンジニアリング(株)の山内芳彦氏からご講演いただき、学内外から20名が参加しました。

安全 健康 快適フェアに参加(ブース出展)

「安全・健康・快適フェア -安全衛生総合展 2007-」(5月16~18日、東京ビッグサイト、(財)全国安全会議、中央労働災害防止協会主催)に、主催者の要請でブースを出展しました。当センターや本学の安心・安全関連の研究教育活動や「安心・安全関連の教員と研究の概要」等の各種資料の配布や展示を行い、来場者から社会教育などに期待の声が寄せられました。フェアへの来場者は20,210名でした。

小林英男教授が内閣総理大臣表彰

当センターの小林英男特任教員(教授)が7月2日に首相官邸にて平成19年度安全功労者として内閣総理大臣より表彰されました。我が国の高圧ガス保安、原子力安全への貢献や人材の育成・指導などが高く評価されたことによるものです。

教育学研究科、国際社会科学研究科、工学府、環境情報学府の大学院生の皆さんへ!

企業の不祥事が社会問題化している中、これからの企業経営に必須のリスクアセスメントやリスクコミュニケーションなどを実践的に学べます。

文部科学省科学技術振興調整費新興分野人材養成プログラム

高度リスクマネジメント技術者育成ユニット

履修生(大学院生)秋募集!

説明会 : 10月5日 12:10~12:55
教育人間科学部講義棟6号館101室
登録期間 : 10月1日~10月12日
問い合わせ : TEL 045-339-3772
自然科学系総合研究棟 I 501室
<http://www.anshin.ynu.ac.jp/unit/home/>
※先生方へ:ゼミや研究室の学生さんへの周知をよろしくお願い致します。

安心・安全関連の学外の動き

文部科学省は7月25日に「安全・安心科学技術の

重要研究開発課題について」をとりまとめ、公表しました。これは、国民が「安心」できる社会の構築に必要な科学技術や研究開発課題をとりまとめたもので、社会現象の研究や、大規模自然災害、子どもや高齢者の安全確保等が大きく取り上げられています。

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/07/07072503/001.htm

安心・安全の科学研究教育センター教職員

(平成19年10月現在)

センター(社会人教育、研究開発ほか)担当

センター長(教授)	関根 和喜
准教授	小林 剛
技術専門職員	鈴木 雄二
事務補佐員	月山 智子

【併任教員】

国際社会科学研究科 教授	藤森 立男
教育人間科学部 教授	鈴木 敏子
教育人間科学部 准教授	安藤 孝敏
工学研究院 准教授	勝地 弘
工学研究院 特別研究教員	鈴木 市郎
環境情報研究院 教授	大谷 英雄
環境情報研究院 教授	佐土原 聡
環境情報研究院 教授	松田 裕之

高度リスクマネジメント技術者育成ユニット担当

特任教員(教授)	田村 昌三
特任教員(教授)	小林 英男
特任教員(教授)	花安 繁郎
特任教員(准教授)	丹羽 雄二
特任教員(准教授)	村上 史朗
特任教員(講師)	古屋 貴司
非常勤講師	河野 龍太郎
技術補佐員	林 夕香子

石油タンク安全管理学分野担当

特任教員(教授)	亀井 浅道
特任教員(教授)	吉田 聖一
客員教授	河野 和間
特任教員(准教授)	橋川 重郎

編集後記

- ❖「学校安全」が盛り上がってきました。大学は?(T)
- ❖10月1~7日は全国労働衛生週間です。(Y)
- ❖センターに来て一年。今まで何気なく見聞きしていた「安心・安全」に敏感になりました。(T)

『ご意見やお知らせ等の記事をお寄せ下さい』

安心・安全の科学研究教育センターニュース

第8号 2007年10月1日発行

国立大学法人 横浜国立大学

安心・安全の科学研究教育センター



〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5

TEL: 045-339-3775, 3776 (社会人教育, 研究開発ほか)

045-339-3772 (高度リスクマネジメント技術者育成ユニット)

045-339-3797 (石油タンク安全管理学分野)

FAX: 045-339-4294

URL: <http://www.anshin.ynu.ac.jp>

E-MAIL: anshin@ynu.ac.jp